

みずほマーケット・トピック(2021 年 6 月 23 日)

やはり無理が出始めた北アイルランド国境管理

英国の EU 離脱(ブレグジット)を協議する際に大きな障害となった北アイルランド問題がここに来て再浮上している。離脱協定(北アイルランド議定書)によって、アイルランドと北アイルランドの間には物理的国境(ハードボーダー)が存在しないで済んでいるものの、その代償として「北アイルランド～英国本土」の間に通商上のボーダーが出現している。「同じ英国内部で境界がある」という状況が果たして運用に耐え得るのか。英国との一体性を重んじるプロテスタント系住民(ユニオニスト)の不満は制御できるのか。運用前から懸念は小さくなかったが、移行期間が終了して約半年が経過した今、やはり行き詰まりを見せている。北アイルランドと英国本土の間では手続きが煩雑になり、その分のコストも増えることから、英国本土から北アイルランドへの財供給が制約されるという事態が発生し、日常生活に支障が出始めている。冷蔵肉供給の制約からソーセージ戦争と声も。元々不満が鬱屈していたユニオニストの行動は先鋭化し、既に最大都市ベルファストでは近年では最悪の暴力沙汰が頻発。北アイルランド議定書の見直し、それともセーフガードの発動か。EU と英国の終わりなき交渉が再び始まりそうな気配。

～北アイルランド問題再び～

FRB による量的緩和の段階的縮小(テーパリング)やそれを受けた株式市場の動揺、そしてコロナ感染抑制状況など、市場参加者の注目テーマは大きく変わっていない。しかし、春先以降、そうしたテーマに隠れて英国では別の問題が浮上している。北アイルランド問題だ。英国の EU 離脱(ブレグジット)を協議する際に大きな障害となった問題がここに来て再浮上している。英国が EU の一部ではなくなることによって北アイルランドも道連れ(という言い方も適切ではないが)になり、北アイルランドとアイルランドの間に物理的国境(いわゆるハードボーダー)が出現するという問題を如何に軟着陸させるかについて、EU と英国は大変な労力を割いたことは記憶に新しい。

周知の通り、北アイルランドは英国との一体性を重んじるプロテスタント系住民(いわゆるユニオニスト)とアイルランドへの帰属意識が強いカトリック系住民(ナショナリスト)の対立が武力衝突にまで発展してきた歴史がある。いわゆる北アイルランド紛争である。この際、両者の国境地帯にはバリケードなどが築かれた。紛争は 30 年にわたり、1998 年 4 月に成立した和平合意「ベルファスト合意」で終結した。この際、互いに EU 加盟国であるアイルランドと(英国の一部である)北アイルランドの間のハードボーダーは廃止され、ヒト・モノの往来が自由になった。だからこそ、ブレグジットに際しては当時の忌まわしい記憶を想起させないためにハードボーダー回避が優先課題になったし、諸外国の多くもそれを望んだ。「英国と一緒に北アイルランドも離脱する」が「アイルランドとのハードボーダーは作らない」という矛盾を前に、離脱交渉は何度も頓挫した。

結局、2019 年の離脱協定では、附帯文書として北アイルランド議定書を締結し、英国本土は EU の関税同盟および単一市場からも離脱するが、北アイルランドは EU 規制の対象に留まり、ハード

ボーダーを回避するという合意がかわされた。北アイルランドは「EU から離脱するが EU 規制の対象」という状態に置かれ、英国との一体性を期待しジョンソン首相を支持したユニオニストに不満が残る裁定だった。ユニオニストからジョンソン首相が「裏切り者」と呼ばれるゆえんである。また、ハードボーダーはなくなったと言っても、EU からすれば北アイルランドと英国本土の物流を放置するわけにはいかない。ここを監視しなければ、北アイルランドを通じて英国が EU 関税同盟ないし単一市場の良いところ取りを働く可能性があるからだ。

よって北アイルランドと英国の物流には EU の求める通関手続きが必要になる。これは「同じ英国内部で境界がある」という状況を意味する。なんのことはない「アイルランド～北アイルランド」のハードボーダーを回避する代償に「北アイルランド～英国本土」に通商上のボーダーが出現した状態だけであり、経済効率を考えれば、アイルランド統一の方が良いのではないかとの機運は必然的に生まれやすい状態である。ユニオニストにとっては全く納得いかない状況である。

～「ソーセージ戦争」から第二次北アイルランド紛争を懸念～

移行期間が終了して約半年が経過した段階だが、こうした運用は予想通り上手くいかなくなっている。実際に移行期間が終了すると、(分かっていたことではあるが)北アイルランドと英国本土の間では手続きが煩雑になり、その分のコストも増えることから、英国本土から北アイルランドへの財供給が制約されるという事態が発生している。民間企業からすれば、金銭的・時間的コストがかさむという理由で出荷を制限する経営判断は合理的である。中小零細企業からすれば、そもそも取引断念という判断もあろう。英国本土から北アイルランドへの冷蔵肉出荷を頓挫させることにちなんで「ソーセージ戦争」などというフレーズが飛び交っている背景である(今回の本欄では詳述しないが、EU は一部の食品に関して非常に厳格な規制を求めている)。安易な政治的妥協が予想通り、日常生活の混乱を招いている状況を住民が大人しく受け入れるはずもない。

とりわけ英国本土から実質的に切り離され不満が鬱屈していたユニオニストの行動は先鋭化する。既に最大都市ベルファストではユニオニストとナショナリストの衝突が顕在化しており、火炎瓶の投げ合い、路線バスのハイジャックなど暴動が横行しており、ソーセージ戦争が第二次北アイルランド紛争に発展することが不安視される状況と見える。英国と言えば、新型コロナウイルスに関し、インド変異株の拡大が話題だが、高いワクチン接種率のおかげで感染者は増えても死者・重症者は増えていない。だが、北アイルランド情勢はこのままいけば痛ましい暴力の犠牲者が出かねない。

～今後想定される展開～

今後の展開は北アイルランド議定書の見直し並びに同議定書第 16 条の取り扱いである。北アイルランド政府を率いるユニオニスト政党・民主統一党(DUP)は、英国政府にその 2 点を求めている。議定書見直しには当然 EU との交渉が待ち受けるため、対症療法として第 16 条の発動に構えているのが現状と言える。現在、議定書見直しは英国および EU の間で交渉が重ねられているようだが、合意が近いという報道は聞こえてきていない。ジョンソン首相は見直しがなされない場合、第 16 条発動をちらつかせている。第 16 条はいわゆるセーフガード条項であり、「重大な経済、社会、環境上の困難」に直面した場合、議定書の適用を一方的に停止し、例外措置を講じることが可能とされている。今年 1 月には EU がワクチン輸出を規制すべく発動に踏み切ろうとしたが、英国の抗議も

あり取り下げることがあった。今回は英国政府が北アイルランドの物流を一時的に自由化するような例外措置に踏み切ろうとする可能性が推測される。実際のところ、ほかならぬ EU が移行期間終了直後に第 16 条に手をつけようとしたことが、第 16 条発動のハードルを下げてしまったという見方もあり、EU としてはバツが悪いところもある。時限的な措置であれば、治安に関わる案件であり、EU も受け入れる素地はあるようにも思える。

もっとも、完全に黙っていることもないだろう。英国から EU に輸出される財に関して制裁関税が課される可能性などは残る。そもそも EU からすれば、本来は EU が行うべき通関行為を北アイルランドや英国に委託しているのが現状である。それは英国を信用して決めたことでもある。それを一方的に破棄するという行為は、間接的にではあるが、「裏切りの上、EU の国境管理を汚した」という話にもなる。黙ってそれを認めることは EU の体面上、許されないだろう。

本件はまだ紆余曲折が予想され、本稿執筆時点の状況も刻一刻と変わるだろう。しかし、今はソーセージ戦争と呼ばれる状況が第二次北アイルランド紛争、そして決着したはずの英国と EU の離脱協議を蒸し返すという展開も目に入ってきており、現状では軽微であるものの、ユーロ相場やポンド相場をウォッチする上での重要材料になることを警戒したい。

市場営業部兼金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔 (TEL: 03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2021年6月22日	遂に日銀も踏み出した中銀のグリーン化～その②～
2021年6月21日	遂に日銀も踏み出した中銀のグリーン化～その①～
2021年6月18日	週末版
2021年6月17日	FOMCを終えて～前倒しで進む正常化シナリオ～
2021年6月16日	新たな安全資産の誕生～ハミルトン・モーメントか否か～
2021年6月15日	イングランド行動制限延長も構図は変わらず
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年5月分)
2021年6月14日	ビットコイン法定通貨化に関する考察
2021年6月11日	週末版(ECB政策理事会を終えて～PEPPのその先を考える～)
2021年6月9日	ワクチン追い風に盛り返すドイツ与党～最後の前哨戦～
2021年6月8日	試され始めた「双循環」～元高容認に変調～
2021年6月4日	週末版(米5月雇用統計を前に～どうあれドル/円相場の行く先は変わらず～)
2021年6月3日	「蚊帳の外」感の強まる円相場～細る取引高～
2021年6月2日	着実に進むユーロ圏の日本化とユーロの堅調
2021年6月1日	米インフレ基調の現状と正常化プロセスへの考察
2021年5月28日	週末版(BOE早期利上げ観測の傍らで浮上する英国リスク～試されるワクチンの力～)
2021年5月26日	30年連続「世界最大の対外純資産国」の背後にドイツあり
2021年5月25日	「量」を意に介さないユーロ相場の騰勢
2021年5月24日	「コロナの終わり」で再認識する暗号資産の虚栄
2021年5月21日	週末版
2021年5月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年4月分)
	FOMC議事要旨～テーバリングが必要なのは財政政策？～
2021年5月19日	ECBのテーバリングはあるのか？
2021年5月18日	鮮明になる円に対する低い関心
2021年5月17日	円相場の基礎的需給環境～Q1を終えて～
2021年5月14日	週末版
2021年5月13日	インフレ懸念で米金融政策は動きそうか？
2021年5月12日	連動が戻り始めた米株価と米消費者心理
2021年5月11日	スコットランド独立を巡るQ&A～現状と展望～
2021年5月10日	最近の為替市場に見る「正常化の胎動」
2021年5月7日	週末版(FRBの対話を阻害してしまうイエレン長官の存在～避けたい「院政」状態～)
2021年5月6日	明暗が鮮明になった「米国 vs. ユーロ圏 & 日本」
2021年4月30日	週末版
2021年4月27日	「成長痛」に直面しそうな新興国はどこにあるか？
2021年4月26日	年後半に警戒したい金融市場の「成長痛」
2021年4月23日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月、テーバリングと曲解されるリスクを警戒～)
2021年4月21日	ユーロ圏銀行貸出態度調査～与信環境の厳しさは継続～
2021年4月20日	調整色が強まってもワクチン相場の核心は変わらず
2021年4月19日	為替政策報告の読みから～イエレン長官の思惑は～
2021年4月16日	週末版(長きにわたる正常化プロセスの始まりか～まずはパウエルショックの回避が至上命題～)
2021年4月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年3月分)
2021年4月14日	多様化が進む世界の外貨準備～ドル離れが顕著に～
2021年4月13日	ユーロ相場の展望～盤石の需給が支えに～
2021年4月12日	近年の「年間値幅」をこなしたドル/円相場の今後
2021年4月9日	週末版(GFSRも懸念する世界経済の「成長痛」～中長期的に拡がる「金利の無い世界」のフロンティア～)
2021年4月7日	IMF世界経済見通しが示す新興国の憂鬱
2021年4月6日	暗雲垂れ込めるアフターメルケルのドイツ政治
2021年4月5日	米3月雇用統計の読み方～長期失業者割合は上昇～
2021年4月2日	週末版(欧州で台頭するワクチン・ナショナリズム～EU 離脱を象徴するワクチン戦争～)
2021年4月1日	ラガルドECB総裁、「挑発」の真意はどこに？
2021年3月29日	リスクシナリオの点検～上下のリスクを検討する～
2021年3月26日	週末版(現状を理解するための3つのテーマ「金利」「コロナ抑制状況」「原油」～「需給」は小休止～)
2021年3月25日	ドイツ州議会選挙に見る「移民から環境へ」のシフト
2021年3月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年2月分)
2021年3月19日	週末版(「実質金利ゼロ」が次の節目？～ハイライトは4～6月期か？～)
2021年3月18日	FOMCレビュー～現状維持に見る強気の足音～
2021年3月16日	FOMCプレビュー～ドットチャート&議長会見～
2021年3月15日	期待の米国、不安の日本～コロナ対応の明暗～
2021年3月12日	週末版(ECB政策理事会を終えて～significantly higher paceの解釈～)
2021年3月11日	ECB政策理事会プレビュー～PEPPの加速を示唆～
2021年3月9日	年初来の為替市場から見える「今年のテーマ」
2021年3月8日	好調な米2月雇用統計にも見逃せない危うさ
2021年3月5日	週末版
2021年3月4日	英ポンド急騰の背景～経済対策、ワクチン、成長率～
2021年3月3日	米金利に連れたユーロ圏金利～ECBは容認できず～
2021年3月2日	「鏡に映った自分」に惑うFRB～前提が変わった2か月間～
2021年2月26日	週末版(米10年金利の1.60%台到達を受けて～パウエルショック～)
2021年2月25日	マネーサプライを見てインフレ語れず～パウエル公聴会～
2021年2月22日	「民間部門の貯蓄過剰」は今後の「マグマ」なのか？
2021年2月19日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～明記された「ユーロ高反転」～)
2021年2月18日	動き始めた米実質金利への懸念～10年1.3%到達を受けて～
2021年2月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年1月分)
	アフターコロナを予感させる米国のインフレ論争
2021年2月15日	ドラギ新首相誕生について～「挙国一致」と「寄せ集め」の狭間～
2021年2月12日	週末版(下がらない実質金利とイールドスプレッドの現状～やはり気になる「米10年金利1.5%」という節目～)
2021年2月9日	円相場の需給環境～貿易均衡国という新常态～
2021年2月8日	試される「双循環」～人民元の上昇は容認されるか～
2021年2月5日	週末版(なぜユーロ圏消費者物価指数(HICP)は急騰したのか？～過性のまやかし～)
2021年2月4日	最悪の落ち込みとなった2020年のユーロ圏経済
2021年2月2日	イスラエルリスクをどう考えるか～世界の実験室～
2021年1月29日	週末版(マイナス金利深掘りを示唆し始めたECB～その理由はどこに？～)
2021年1月27日	米10年金利はどこまで上がりそうか？
2021年1月25日	最悪となった2020年のユーロ圏物価情勢
2021年1月22日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「次の一手」はYCC？～)
2021年1月20日	「強いドル」とは言わなかったイエレン新財務長官
2021年1月19日	直接投資減少で緩むドル/円相場の「地盤」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年12月分)
2021年1月18日	金融市場はバイデン新政権をどう見ているのか？
2021年1月15日	週末版(ECB政策理事会議事要旨～ラガルド流が試されるのは昨年よりも今年～)